神奈川県立平塚ろう学校　令和４年度第３回学校運営協議会　開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第２回学校運営協議会
開催期日	令和５年２月 27 日（月）
開催場所	神奈川県立平塚ろう学校　多目的ホール
出席者	神奈川県立平塚ろう学校　学校運営協議会委員８名
次回開催予定日	令和５年５月頃
問合せ先	平塚ろう学校　　副校長　水上 電　話　　0463-32-0913 ＦＡＸ　　0463-32-1646 電子ﾒｰﾙ　hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
議題	（１）　令和４年度学校評価（年間評価）について （２）　令和５年度学校運営協議会について
審議（会議）経過	・学校長あいさつ ・会長あいさつ （１）　令和４年度学校評価（年間評価） 【質問】 ・SSD を付け替えたのは誰か。 【回答】 ・情報担当教員３人が行った。時間もスキルも必要な作業である。生徒の一人１台パソコンのために、教員の古い PC の SSD を入れ替える事で再利用する取組である。 【質問】 ・コロナで苦労したこととは。 【回答】 ・コロナ渦では、やめる、まつ、わけるという一斉指導があり、それが３年間続いたため、子ども達の自主的な学びたいという気持ちを引き出すのには工夫が必要であった。デジタル化が進み、個別で（家で）学習も可能となっている中で、聾学校で教えるべき内容を改めて考える必要があるし、それについての職員間の共通理解も大切である。 【意見】 ・コロナが収束して、コロナ前に戻るのではなく、新たな取組を始める、という捉え方もできる。

	【意見】 ・先生方の取組に感謝する。コロナで体験を伴う授業が減ってしまったが、体験や行動を言葉に繋げる取組の必要性を感じている。これまでの（専門的な）教育については、経験の長い保護者に聞いても良いと思う。 【意見】 ・コロナで病んでしまう子どもも多かったと聞いている。子どものモチベーションを上げるために、最大の感染防止対策を講じて、率先して外に出て集団活動をした学校があるが、その後、周りの学校も続いて活動を再開するようになったそうである。学校は経験の大切な場であるから、平塚ろう学校も、神奈川県のリーダー校として、一足先に取り組む「ちょっと先にチャレンジ」してみても良いのではないか。 【意見】 ・インクルーシブハブについて、関係各所に協力依頼に行き、新年度からのスタート目指して取り組んでいる。メディア発信にも取り組む予定である。ベルマーレからは、平塚ろう学校と関わりを持ったことで、新たな気づき等があった等の感想を聞いている。平塚のスタジアムもインクルーシブなものにしたいと提言している。 【質問】 ・避難訓練について、１年間で何回行ったか。子どもにどのような指導を行ったのか。避難場所は決まっているか。 【回答】 ・３回実施（火災、地震、津波避難・防災教室）した。子どもには事前周知無しで実施し、実施後にフィードバックをした。防災教室では発達段階に応じた資料映像等を活用している。コロナ以前は非常食を食べる取組もしていた。グランド等、避難場所は決まっている。 【意見】 ・平塚ろう学校から就職した生徒がいるが、正社員としての雇用が多く、他の障害と比べると同じように働けるケースが多いとは思うが、コミュニケーションやニュアンスに苦労があるように感じる。こちら側に、聾者の理解が足りない部分もある。リーダー研修などでお互いの理解を深める取組も良いのではないか。

	【意見】 ・地域に出て、同年代が触れ合う機会を大切にして欲しい。合理的配慮が自然の流れになると良い。情報保障についての支援、取組が企業側にも必要だと思う。健常者からは分からない部分もあるので、困った事、要望は声を上げて欲しい。コミュニケーションとニュアンスの難しさは感じている。 【質問】 ・ロジャーについて及び補聴環境の評価について教えてほしい。 【回答】 ・デジタル補聴援助システムで聞き方を補助するものである。幼稚部では教員が環境を整えて使用している。 【意見】 ・地域での手話講習について期待している。防災関係では大原小で「防災キャンプ(仮称)」を開催し、子どもの地域参加、参画を考えている。大原小との交流もあり得るのではないか。和太鼓の演奏会を何らかの形で実現したい。 （２）令和５年度学校運営協議会について ・今年度のお礼、次年度の確認